

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。

はいさい

《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。

KBC学園から病院見学



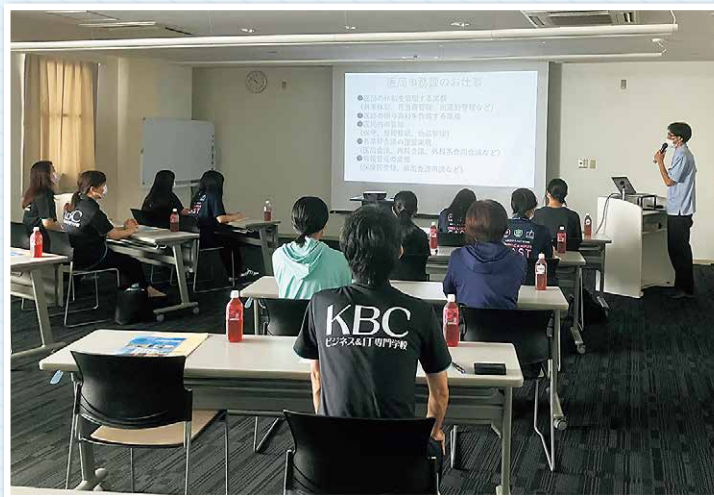
8 月 15 日 (土)、KBC 学園の学生 4 名と高校生 3 名、保護者、教員の皆さんが沖縄協同病院の見学に訪れました。今回の見学は、医療事務などの事務系職種を目指す学生の皆さんを対象に行われ、医療事務課、医局事務課、診療情報管理室、医療情報分析室、薬局事務の 5 部署を見学しました。

各部署の担当者からそれぞれの仕事内容や役割について説明を行った後、実際の職場を見学してもらいました。普段は患者さんや一般の方が入ることのできない場所も見学してもらい、職員が実際に仕事をしている様子を見てもらいました。医局事務課では、医師を支える事務職員の仕事について、普段の業務内容だけでなく、仕事をする上で大変なことや楽しいこと、仕事のやりがい、どのような人がこの仕事に向いているのかなど、具体的な話を紹介しました。その後、実際に医局内を案内し、見学を終了しました。

参加した学生や教員からは、「普段入ることのできない病院の場所を見ることができてよかった」「実際に仕事をしている姿を見ることができ、将来働くイメージができた」といった感想がありました。

近年、事務系職種を志す若者が少なくなっており、医療機関においても人材の確保が難しくなっています。今回のような学校との交流や病院見学を通して、医療機関で働く事務職の魅力や仕事のやりがいを知ってもらうことは、将来の人材確保にもつながる大切な取り組みです。沖縄協同病院では、今後も専門学校や高等学校とのつながりを大切に、学生の皆さんが医療現場や病院で働く事務職について知ることのできる機会を積極的につくっていきたいと考えています。

医局事務課 課長 玉城 義也

はいさい
10月号
アンケート病院の活動状況
＜2026年8月度＞

- ・ 外来一日平均患者数：207人（前年同月比 -20人）
- ・ 入院一日平均患者数：236人（前年同月比 -26人）
- ・ 組合員利用分量（率）：59.0%（前年同月比 +0.2%）

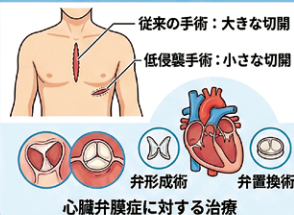
心臓血管外科における低侵襲治療への取り組み

いざざ

(235) 心臓血管外科より

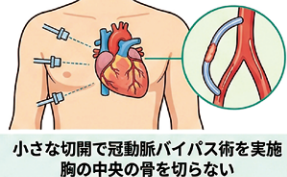
心臓血管外科の低侵襲治療

低侵襲心臓手術



MICS-CABG

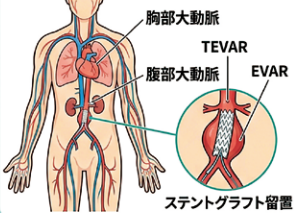
(低侵襲冠動脈バイパス術)



小さな切開で冠動脈バイパス術を実施
胸の中央の骨を切らない

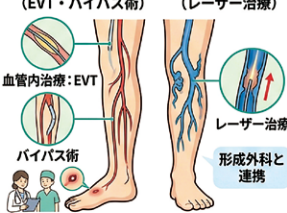
大動脈血管内治療

(TEVAR・EVAR)



足の血管疾患治療

下肢閉塞性動脈硬化症 (EVT・バイパス術)



血管内治療：EVT
バイパス術
形成外科と連携

心臓血管外科 部長 橋本 巨

今後とも患者さんの安全を第一に、それぞれの病状に適した治療を選択し、より質の高い心臓血管外科診療を提供できるよう努めてまいります。

大動脈疾患には、カテーテル（細い管）を血管の中に入れて治療する TEVAR・EVAR を行っています。足の血管の病気には血管内治療（EVT）を中心に、必要に応じてバイパス術を行い、下肢静脈瘤にはレーザー治療を実施しています。

僧帽弁や大動脈弁については、ご自身の弁をできるだけ残して修復する「弁形成術」に取り組んでいます。また、必要に応じて人工弁に置き換える「弁置換術」も行っています。この弁置換術と弁置換術を、右胸を小さく切開する「右小切開低侵襲手術」で行っています。

狭心症などの冠動脈疾患に対しては、胸の左側を小さく切開して行う「MICS-CABG（低侵襲冠動脈バイパス術）」を実施しています。胸の中央の骨を切開しないため、身体への負担が少ないことが特徴です。

当科では、心臓や血管の病気に対し、患者さんの身体への負担をできるだけ少なくする「低侵襲治療」に力を入れています。



職場づくり研修をうけて

この度、患者様がより安心してご利用いただける環境を整える事を目的に、様々な職種20名で、キャリアカウンセラーの大嶺本子先生による職場づくり研修を受講しました。

研修では、言葉だけではなく、表情や声のトーン、立ち居振る舞いも含めた対応が、患者様の安心感につながる事を学びました。また、忙しい場面においても、相手の立場に立ち、不安な気持ちにさせないよう、クッション言葉や思いやりのある表現を選ぶことの大切さを再認識しました。

例えば、「できません」「分かりません」といった直接的な表現ではなく、「申し訳ございませんが、こちらでしたらご案内可能です」「確認のうえ改めてご説明いたします」など、丁寧な伝え方を心がけることが重要であると学びました。

患者様の気持ちに寄り添い、安心してご利用いただけるよう、今回の学びを日々の業務に活かしていきます。さらに、職員同士が積極的にコミュニケーションをはかり、連携を行うことで、より良い医療・ケアサービスの提供につなげていきます。

2階外来 看護師 竹内 鈴香



医療従事者向け地域講演会

8月20日、「医療従事者向け地域講演会」を開催しました。

これは、沖縄協同病院が急性期病院として、那覇・南部地域の医療機関との地域医療連携をさらに深めること、地域の医療・介護・福祉の発展に寄与することを目的としています。

第1回は「脳血管内治療はここまで進化した！」と題して、脳血管センター長の木本先生が講演しました。オンライン視聴の地域の医療従事者の方だけでなく、会場にも当院職員が参加し、その合計は60名を超える盛況となりました。脳血管疾患の治療について、治療方法の進化の歴史や症例報告などもありとても有意義な学びの機会となりました。

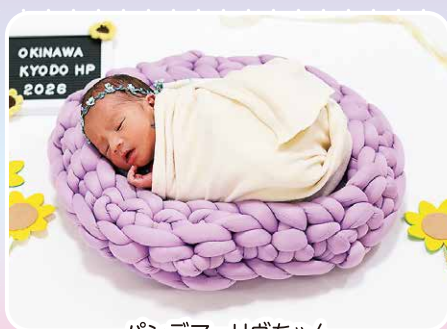
地域医療支援病院という施設基準の要件でもありますが、今後も医師をはじめとする各専門職の取り組みについて、地域講演会を定期的に開催します。

地域連携課 課長 長原野



こんにちは赤ちゃん

当院で出生したBabyの写真です



パンデアーリヴちゃん



山口菜永ちゃん

Instagramやってます

@okikyo.sanka



私の部署の いいところ

私たち2階外来は、小さなお子様からシニアの方まで、地域の皆様が安心して受診できるようサポートしています。

2階のフロアには、外科、泌尿器科、腫瘍内科、小児科、眼科、形成外科、歯科口腔外科、さらに心療内科、産婦人科の9つの診療科が集まっています。

手術の相談から、専門的なお薬の治療、お子様のケアまで、それぞれの得意分野を持つスタッフが、職種の垣根を越えてしっかり連携しています。

忙しい部署ですが、その中でも患者さまからの「ありがとう」の笑顔に毎日たくさんの元気をいただいています。不安な気持ちで来院される患者さまに寄り添った、温かい対応を心がけています。いつでもお気軽にお声がけ下さい！

2階外来 看護師 上原 香菜子



2階外来



認定(特定)看護師紹介 ⑥ 緩和ケア認定看護師



病院での緩和ケア認定看護師の役割は、病気や治療による「痛み」「苦しさ」「眠れない」「不安」「悲しみ」など心のつらさにも寄り添い、その人らしく過ごせるよう支えています。

病棟で勤務する中で、痛みが強く不安を訴えていた患者さんに、そばに座ってゆっくり話を聴くことを大切にしています。患者さんやご家族が「話を聴いてもらえて安心した」と笑顔を見せてくださった時、寄り添うことの大切さを改めて感じました。

患者さんの言葉だけでなく、表情や仕草から思いをくみ取り、毎週の緩和ケアカンファレンスで医師や多職種と情報共有しながら、その人に合ったケアを考えています。患者さんが安心して思いを話せる存在でありたいと思い、一人ひとりの価値観や大切にしていることを尊重しながら、心を込めて関わっています。

8階病棟 緩和ケア認定看護師 大城 早苗

まじゅん10 子供たちと走る街のシュガートレイン 壺川東公園：那覇市壺川



ごつい顔の汽車は子供たちも自由に運転席に乗ることができる。もちろんさんぽ人も汽車に乗り込み、しばしの運転手気分を味わった。前方よし！出発進行！

那覇市壺川の裏通り。壺川東公園の芝生には、なぜかごつい汽車が停車中である。そして線路は15メートルほどで途切れている…。

実はこの公園の整備工事中、戦前の軽便鉄道のレールが掘り起こされていた。この近くには軽便与那原線の線路があったのだ。



現役の頃、サトウキビを運ぶシュガートレイン。働き者である。写真：南大東村立ふるさと文化センター

とは言っても、この汽車は軽便鉄道のものではない。太平洋に浮かぶサトウキビの島からやって来た。

青いボディーのディーゼル車は、かつて南大東島を縦横無尽に走っていたシュガートレイン(サトウキビ列車)である。沖縄本島の鉄道は戦争で破壊され廃業したが、南大東では戦後も島の基幹産業の担い手としてバリバリに働いていた。

1983年廃線。主役はトラック輸送に替わった。そして汽車は鉄道とゆかりのあるこの公園に寄贈された。



夢の線路は公園から未来へと続く

かつてサトウキビをぎゅうぎゅうに詰め込み南大東の島中を走りまわった汽車。子供たちと遊ぶ今の新しい仕事もきつと気に入っているはず。

さんぽ人 宮城 じゅん